

～あの街でこの街でいきいき働く W.Coの仲間たち～

風車

家族のような居場所

●リユース食器レンタル事業 ●居場所事業

「風車」は利用者が好きな時に来て話したり、仕事付きの居場所を作ってきた。利用者も家族も「働かなければ」「会社で仕事をしなければ」という義務感に苛まれることが多いという。「普通でなければだめ」という社会の固定観念を何とか打ち破れないか。「風車」はその通り道だとスタッフは考える。長年の利用者も親が高齢になり、自身の将来を考えてグループホームへの入居、生活保護での自立を選択した人もいる。「無理をしない範囲で自分の納得のいく選択をしてほしい。でも合わないと感じたら、いつでも戻ってきて構わない」。まるで自分の家族のこのように話す、その表情から、一人ひとりを温かく見守りたいというスタッフの想いが伝わってきた。(柏B 香取春美)



*B=ブロック

菜の花

W.Coの働き方に共感!

●弁当・惣菜

新松戸にある「菜の花」は「地域の皆様の健康な食生活を応援したい」の想いで32年前にスタート。代表(2年に1回交代)の橋本さんにお話を伺った。



地域に愛される「菜の花」のお弁当

「運営側にならないか?」と声を掛けられ、パートから運営側が変わった。「出資金」「ワーカーズコレクティブって何?」と、初めは戸惑いがあったけれど、家族の理解で決意できた。全員が経営者で、課題が出れば、話し合う。「みんなで進めている」という心強さと安心感。家庭の事情(子育て、介護など)をお互い理解し、協力しながら働ける場所だという。

起業し、地域に貢献したい人にとって、ワーカーズの働き方は1つの選択肢かもしれないと思った。

(柏B 田口由美恵)

紙ふうせん

地域と歩んだ26年

紙ふうせんは、1995年に6人で設立。もともと環境問題に関心の高かったメンバーは、まだ使える家具や雑貨がゴミとして廃棄されていることを憂慮し、出資金を



消費材やリサイクル品の並ぶ店内

出し合い、**リサイクル事業**を始めた。地域の要望に応じて活動を続けるうちに、**レストラン、弁当、生活支援、就労支援B型事業**など活動の幅を広げてきた。

特筆すべきは、全員が経営者である点だ。トップダウン方式とは違い、全員で意見を出し合い、個々の事情に応じて勤務時間、作業内容、報酬も決め、多様な人材の働きやすさに繋がっている。一方で責任も全員で負っている。働くメンバーが同じ志を持ち、助け合いながら生き生きと活動している姿に感銘を受けた。(柏B 大澤みはる)

東葛連携プロジェクト

キッチンカーでGO!

11月6日(土)、流通経済大学新松戸キャンパスで、キッチンカーを活用してこども食堂を開催しました。



虹の街組合員やとうかつ草の根フードバンク、柏市地域生活支援センターなどからお米や食品の寄付も届き、お弁当130食、フードパントリー200袋を東葛エリアのW.Co事業所が準備し、おはぎやクッキーなども販売しました。

当日は、松戸のこども食堂の応援で着ぐるみパンダや風船の呼び込みもあり、買い物帰りの家族やこども達で賑わいました。

「これなら続けていける。またやろうね」

「みんなに会えて楽しかった」

みんなが笑顔で、わくわくした1日となりました。

(広報担当理事 五十嵐紀子)



特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ千葉県連合会機関紙『わくわ〜くちば』第117号
〒277-0872 千葉県柏市十余二 380-97 生活クラブ虹の街センター柏内 TEL/FAX 04-7134-0072
Eメール wcochiba@s2.dion.ne.jp Webサイト <http://wcochiba.org/index.html>

発行責任: 熊澤聡子 編集: W.Co 千葉県連合会 編集委員会 発行日: 2021年12月13日(年2回発行)